



トロント新移住者協会 www.torontonjca.com torontonjca@yahoo.co.jp
NEW JAPANESE CANADIAN ASSOCIATION c/o JCCC, 6 GARAMOND COURT, TORONTO, ONTARIO, CANADA M3C 1Z5

巻頭言 今が大切

書記 三浦信義



僕が卒業した日本の大学のモットーだ。僕は昔からモットーなどというものは無視して暮らして来た。ただ、このモットーだけは何となく好きだ。結構実践的なモットーで、自分に言い聞かせて効果があったことが良くある。

新移住者協会が「今が大切」の状況に直面している。

新移住者協会やその加盟団体は、日系文化会館の旧館では会館の好意で、新館では日本政府の補助で存在していたAJCコートのお陰で、1年前まで順調な活動を続ける事が出来た。そういう活動の中で多くの新しい加盟団体も生まれた。

昨年以来の2階改築で協会のそういう活動スペースが消滅してしまった。以来住む家を失った家族のように、加盟団体や学校の一部は日系文化会館の外での活動を余儀なくされた。会館内での活動も会館の料金収入優先の都合で思うように行かなくなってしまった。

春以来何回も協会は会館と交渉を行なった。唯一の解決方法は協会が会館内にテナントとして入居し活動スペースを確保する、という結論に達した。交渉では一時きつい言葉のやり取りもあったが、結果としてお互いの難しい立場を理解することに役立った。

テナント入居、と簡単に言うが、これは協会にとって大きな経済的な責任と負担を伴う。ひとつ間違えば協会は倒産の危機に陥る。しかしながら、今、協会が活動スペース確保の努力を怠れば、これは協会や加盟団体の活動の将来、その存在にすら大きな影響を与える。一旦改築が完了すれば、もうそういう空間はない。協会の将来にとって「今が大切」。協会の歴史の上で今の理事会の責任は大きいと認識している。

日系文化会館は現在財政的に非常に難しい立場にある。最大限の収入を得ることが至上政策になっている。一方、会館は新移住者協会の日系社会内における長い歴史と日系社会・会館への大きな貢献を認めてもいる。日系文化会館が協会の活動拠点であるべきことに疑問をはさむ人はいないだろう。そういう理解のもとに協会は出来るだけ有利な賃貸条件を会館から引き出す努力を今後続ける。

この協会活動スペースの確保には協会会員・加盟団体の皆さん、さらには移住者社会全体の皆さんの大きな支持と協力が不可欠である。今後協会の収入増加や寄付要請など各種の提案が出されると思う。「今が大切」、新移住者協会の将来の為に皆さんの出来る限りの強い支持をお願いします。

富士の山

中山あつ子

日本という島の国を支えている、そして日本の代名詞と言っても過言ではない「富士の山」...箱根に行った姪が撮ったという写真が送られてきた。人を魅了するようなその壮麗さ、そのバランスの取れた姿...そこには、なんとも言えない何かを内部に隠し持っているような魅力さえ感じる。日本を離れてからいつかこの富士山の姿を一番良い角度から見たいと思うようになった。その思いが通じたのか姪は素晴らしい角度からシャッターを押したようだ。

異国に居て、初めて気づく事気づかされる事がたくさんある。富士山が持つ神秘的な美しさに気づいた時「私の生まれた国につぼん」と誇りを持って言えそうな気がする。

約10万年前、大噴火の繰り返しで土台ができ、1万年前からの活動で現在の富士山が形作られたとある。気の遠くなりそうなその歴史を改めて知り、いつかあの麓に立って「富士の山」と対面したいと思っている。

今、幕末という時代を真っ直ぐに生きた女性「篤姫」がNHKの大河ドラマで放映され話題になっている。その篤姫が桜島に別れを告げ江戸に向う途中、富士山に対面した時に「篤子でございます...。」と手を合わせた姿になぜか強い印象を受けた。そしてその瞬間、パッと映し出された富士山の姿が妙に脳裏に焼きついて消えない。その時代から日本の姿は夢のように変わった。しかしあの富士山は変わることなく変わっていく人々と変わっていく日本の姿を眺めてきたのだ。今、私は幕末に篤姫が見たその光景をその場所から見たいという気持ちに駆られている。

そして、「富士山」という唱歌が明治43年に作られた。その2番の歌詞がとてもいい。



青空高くそびえ立ち
からだに雪の着物着て
霞のすそを遠くひく
富士は日本一の山

写真はまさにその歌詞のような姿を映し出している。





僕は、六月十七日から七月十七日の一ヶ月間、JICA の研修で日本に行きました。メキシコから三人、ドミニカ共和国から四人、ベネズエラから一人、コロンビアから一人、そしてカナダから四人の全員で十三人でした。

成田空港に着いてみんなの顔を見て、ほとんどの人が日本人の顔をしていなかったのちょっとびっくりしたけど、みんないい人でした。その後、JICA センターに行き、そこでルームメイトが決まりました。ぼくのルームメイトはドミニカ共和国から来た一番年上の人でした。最初は誰も知らなくて恥ずかしかったけど、すぐにみんな友達になりました。日本に着いたその日の夕食は、おにぎり一個とチキンフィンガーが三つだけで、全然足りなくて、おなかがぺこぺこで夜眠れませんでした。

はじめの一週間は中学校に行きました。授業はよくわからなくてぼーとしてることが多くつまらなかったけど、たくさんの友達をつくれてよかったです。

学校で一番楽しかったことは体育の時間です。それと、理科の時間もおもしろかったです。部活も入ることができ、ぼくはテニスに入りました。とても上手な人がたくさんいました。

JICA センターでも、いろいろなことを学びました。中学校での技術も楽しかったけど、JICA センターでの技術の時間のほうがおもしろかったです。まず、最初に和紙を使ってデザインしたうちわを作りました。それから、ろうけつ染めのハンカチを作りました。最後に日本の伝統的な継ぎ手を学びました。継ぎ手は家を作るときに使われていて、とてもおもしろいと思います。

研修旅行では日光に行きました。とても綺麗なところでした。山がたくさんあって、空気もきれいでした。温泉にもはいることができてよかったです。日光では江戸村にも行きました。そこで、昔のさむらいのことをなったり、着物を着たり、竹どんぼをついたりしておもしろかったです。僕の竹どんぼはよくとびました。着物はまた着てみたいです。

楽しいことばかりで、あっという間に一ヶ月が過ぎてしまいました。最後の日は、みんなと別れるのが寂しかったですが、5年後に横浜からのピースボートで全員で再会する約束をして別れました。この研修はとてもいい経験でした。ありがとうございました。



今年 2008 年は、日本人を乗せた最初の移民船「笠戸丸」がブラジル・サントス港に到着して丁度 100 年。この六月には皇太子殿下をお迎えして、サンパウロ市でブラジル日本移民 100 周年記念式典が行われました。ブラジルの日系人口は全国で 150 万人、サンパウロ州だけで 110 万人が住んでいます。その大半がサンパウロ都市圏に集中して、世界最大の日系人居住地域となっています。

今回私は、式典の余韻がまだ残るこの都市で開催された、「第 23 回汎米日本語教師合同研修会」に参加する機会に恵まれました。これは国際協力機構 (JICA) が推進している日系社会支援事業の一環で、7 月 15 日～23 日までブラジル日本語センター主催のもとで行われました。研修生は国内各地からの 18 名とカナダ、ドミニカ、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンからの 10 名を含め、総勢 28 名が参加されました。

日程は例年より期間が短くなったことで、過密スケジュールの毎日でした。ホテルに着いた初日からいきなり宿題が与えられ、開会式終了直後から最終日まで 18 教科を履習しました。8 時 20 分の朝の体操から一日が始まり、夕方 6 時頃までの研修で、昼休み一時間と毎時限の 15 分休憩も準備等で慌ただしく過ぎました。

研修内容は、教師としての心構えを学ぶ「日本語教師としての役割」や「授業の実際」などの教科と、「文法・文型」「音声」「教科書分析」などの基本的な知識を学ぶ教科、そして「教え方のテクニック」「平仮名、片仮名、漢字の導入」「複式授業」などの技術教科とに分けられ、あらゆる角度から日本語を効率的に教えられるように、技能と指導力の向上を図っています。授業では実際に、研修生各自の副教材や、授業の流れに沿った教案を作らせる実践練習がありました。プログラムの最後には、5～6 人のグループになって授業案を作成し、模擬授業を行いました。

この研修を通して印象に残ることが、幾つかありました。まず、講師の教える姿勢に好感がもてたことです。地元の大学や日本語学校で教える講師陣は、一方的に講義したり質問に答えたりするのではなく、同じ教師という共通の立場で問題を提起し、共に考察しようとする真摯な姿勢に感銘を受けました。

又、研修にはグループ作業が多かったことから、学習を通して仲間を理解しようとする親しい交流の場がふえました。それは、結果的に日本語の世界を広めることだけでなく、自分の身の回りの世界をも広げることになって、もっと自分の世界が分かりやすくなるように思えました。そして、新たな授業方法を知ったことも貴重な体験になりました。音声学を取り入れた授業は予想外の発見で、これからの私の検討課題になりました。

さて、最近 JICA からの助成金交付額の見直しがなされ、非 ODA 国であるカナダからの参加が危ぶまれています。日本語教師にとって大変貴重な経験になりうるこの会に、今後、カナダからの参加が継続されることを切に望みます。

今回の参加が改めて幸運であったと思うと同時に、開催に全面的にご支援、ご協力戴いた JICA 初め、ブラジル日本語センターの関係者の方々に、カナダの窓口であるトロント移住者協会に、アドバイスを下さった日加学園、浜場校長先生にこの場を借りまして、心からお礼申し上げます。



少し前の映画ですが、“The Interpreter”の中でニコール キッドマンが、国連の同時通訳の役を演じていました。興味のある題材の物語だったので 実世界で同業者でもある、米原万里の本を2冊ほぼ同時進行で読んでみました。

ゴルバチョフやエリツエンから名指して指名が来るほどのロシア語同時通訳の第一人者でもあった彼女は(2005年 逝去)、本職のみならず、有能な文筆家がそうである様に、分野、題材に依って全く別の筆法で書き分ける作家、さらにエッセイストとしての顔を備えていました。

例えば、林不忘(はやしふぼう)の名前は知らなくても「丹下左善」の作者といえば判るように、アメリカに留学したこともある長谷川海太郎は、牧逸馬、谷穰次の3つのペンネームを使い分けて、犯罪小説、翻訳と、旅行記等を書き、また「銭型平次」の作者、野村胡堂は、“あらえびす”の名前で音楽評論家としても一流でした。

そして、最近の作者では遠藤周作も純文学の芥川賞作家ながら“こりゃあかんわ”をもじった「狐狸庵閑話」という大変くだけた、ユーモラスな文章を書いています。

ところで、二冊のタイトルは「打ちのめされるようなすごい本」と「ガセネット&シモネット」という全く分野の異なる本です。最初の本は、書評家としての集大成とも言えるもので、“私の読書日記”と“書評”から構成されています。

「いい通訳の条件は、その国の小説を自在に読めること、そして自国の小説もちゃんと読めること」を持論にしていた彼女だけに、ここに、網羅された本は専門のロシア関係の書物はもとより大江文学、丸谷文学、のみならず、司馬遼太郎、東海林さだお、ミステリー、ペット好き故に犬、猫関係の本、またこのような本があったのかと思わせ

る全く予想外の選択など、彼女の広域に渡る知識欲には、一同時通訳者というより、猫ビルの住人、現代の“知の巨人”と言われる立花隆を彷彿させます。そして書評家という余り割に合わない分野にとても真摯に挑戦しています。二冊目は同時通訳者の眼を通して、この非常にユニークな特殊技能集団の構成模様、人間関係、とても予想も出来ないようなエピソード等を辛辣且つ独特の筆致で描いた一冊です。

そしてこれは、彼女が描いた未来図、ITの先端を行く書店です。

「空想書店」——— こんな本屋があったら。(以下引用)

“当店では古今東西のあらゆる言語、あらゆる文字で著された書物を手にとってご覧になれます。実物と見まちがうほど精巧なレプリカですがね。本の結びや皺や染みまで見事に再現してますでしょう。

この間、コピー技術と情報蓄積技術が飛躍的な進歩を遂げたのもさることながら、書物は人類の共有財産であるという考え方が世界の常識になったおかげです。

各国には過去現在未来の文献情報が集約されるデータベースが創られ、お互いネットワークで繋がっています。この地球的ネットワークのアクセス権を持つ当店では、お客様が必要としている本を瞬時にお取り寄せすることができるのです。

本は不思議な商品です。物でありながら物ではないのですからね。文字で記された情報があるからこそ、ただの紙がおおきな価値を持つ。紙は場所を取りますし、紙の生産は近頃減法貴重になった酸素供給源の森林を食い潰します。売れ残って捨てられる本も何と多かつたことか。運搬コストも倉庫維持費も馬鹿にならない。店舗や住宅の面積を圧迫します。ところが、紙を本たらしめている情報は紙ほど場所を取らないし運搬コストもかからない。コンパクトに蓄積できる。

日本語教育プロジェクトからのご案内と報告

2008年度の年間日本語教育関連講演会のご案内

本年度も下記の通り4回講演会を開催いたします。講演者名と講演のトピックスは下記の通りです。講演の対象は主として日本語学校で教鞭を取っておられる日本語教師ですが、お子さんを日本語学校に現在送っておられるとか、今後、お子さんを日本語学校へ送ることを考えておられる方々にもぜひ時間を作ってご参加戴きたいと思ひます。

開催場所はいずれも日系文化会館の会議室で時間は12時半から4時の予定です。

- 2008年10月26日(日) 日本語文法
金谷武洋 先生 モントリオール大学
- 2008年11月30日(日) 漢字
小室リー郁子 先生 トロント大学
- 2009年2月22日(日) 継承日本語教育
鈴木美知子 先生 元国語教室校長
- 2009年3月15日(日) 教育現場での児童心理
赤松 種 心理学博士 国語教室児童心理相談役、理事長歴任



本年度も独立法人海外協力機構(JICA)からの支援で日本語学校生徒の本邦研修と南米での日本語学校教師合同研修会が開催され、下記の方々がトロント新移住者協会が委託を受けて選考を行った結果選考されました。ここにトロントを代表して参加された2名の方々の帰国報告を掲載いたします。

日本語学校生徒本邦研修生 国語教室:孫 竜 君
汎米日本語教師合同研修会トロント代表日加学園:大久保成子 先生

きみこの蔵出しトーク

小バエ&ウロコ編



杉本 喜美子

①暑くなってくると一体どこからどうい風にご誕生なさるのが不思議でならないのが、フルーツバエ、またの名を小バエという小うるさいアレです。フルーツバエというから熟したフルーツばかりにたかっているかというそうでもない。生ごみ入れの蓋を開けたとたんに集団で現れ、しまった!外で開ければよかつた!としばしば反省させられる。レギュラーのハエほどには敵対心は湧かないがかなりうとうしい。

去年これを退治する方法を編み出し、実験も成功したので公表します。掃除機のホースの部分を使えば、スイスイ小バエが吸い込まれ あっという間に消えてなくなります。

安物の騒音付き掃除機だって大丈夫。小バエは耳が遠いことも実証済みです。もう濡れ布巾でバシバシ叩かなくていいです。小バエの舞い飛びキッチンよさようなら。

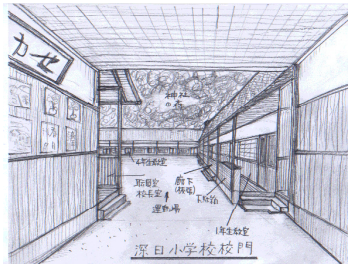
②それから、飛び散って迷惑なのは、他にもあります。魚のうろこ取りって面倒ですよ。魚を切り身で打ってる日本のスーパーが恋しくなります。仕方がないから流しの中に水を溜め ピーラーでガシガシやったり、ビニール袋の中でガシガシこすったり、そこらじゅう うろこだらけにしたことはありませんか?

もうそれも卒業しましょう!水のボトルの白い蓋(もちろんコークのボトルの蓋だって OK)一つあればひらめでも鯛でも うろこのある魚はなんでも来い!です。かる〜く擦るだけで飛び散る事も無く、あっという間につるつるになります。きっと寿司職人さんも目からうろこ、間違いありません。

僕の少年時代 - 冬の遊びいろいろ

長石芳尚

学校で何を勉強したか全く記憶に残っていないが、学校への行き帰りばかりでなく、学校でさえ遊ぶために通っていたような事だから、以前にも書いたように学校が退けると直ちに僕たちの Play-Mode にスイッチが入り、遊びながら帰路に向かい自宅に学用品を放り込むや否や、誰とは無しに何とか集まって、ブラブラするうちにその日の過ごし方が何となく決まってくるのが通例であったが、時には何の思案も出てこないでつまらない1日になってしまう事もあった。当時を思い起こして、一体僕たちはどのように時間を過ごしていたのか季節毎に書き出してみようと思う。これらの遊びは今や全く姿を消している事は間違いなく、最近の復古調が当時の遊び道具の一部を復古して販売している店があることも耳にするが具体的に調べてはいない。



まず、1年の始まりのお正月に始まる冬だ。冬の最中でも僕たちは皆半ズボンで大概はセーターを着て暖を確保しようとしていたが家から一步外に出ると寒さが身にこたえる毎日であった。それでも手作りの凧上げを社宅の外れを流れる小川の東側の狭い台地に立つ一本松の横から下に広がる夏には蛍が出る谷あいから矢張り社宅が並ぶ向かいの山に向かってドンドン糸を繰り出して行くのは爽快であった。ちなみにこの松は以前に書いたが、時としてチュウインガムの代用品となり、シャボン玉に入れて細かい、連続的な泡をストローから吹き出すための松脂を生み出す(この知識は父親から貰った)貴重な存在であった。

僕たちが3,4人集まった時には、独楽をまわして手のひらに載せて遊ぶ鬼ごっこで時間をつぶした。これは寒さを忘れさせてくれるもので、独楽の芯先は丁寧に鑢で丸くして手のひらの当たりを良くしたものだ。それとビー玉遊び。ビー玉はそれ自体眺めているだけで魅入られてしまう魅力を充分持っていたが、地面にある相手のビー玉を自分のビー玉でうまく当てると自分のものになるという遊びで凍てついた地面に時には膝をついてまで夢中になった。青く透き通って小さな泡が星屑のように浮かんでいるのや赤、黄、青の振じれたものが中に入ったものなどがあったが、ある時から二まわりほど小さなものが出てきた時は一時夢中になって集めポケットにジャラジャラ入れて、その重さを感じる時この上なく満足感を持ったものだがすぐに飽きて矢張り元の大型のものしか目にしなくなった。

兎に角、真冬でも家の中に閉じこもっている事は殆どなかったように記憶する。その為に遊び方を発明するのだがしばらくすると飽きてしまう。学校では休み時間ともなると教室から必ず出て、ドッジボール、これはゴム製の柔らかなボールを使って当てあっこする遊びや壁に背中をつけて1人が立ち数人が頭を前にいる仲間の股に頭を突っ込んで背中を平らにした所に順次飛び乗って行く遊び

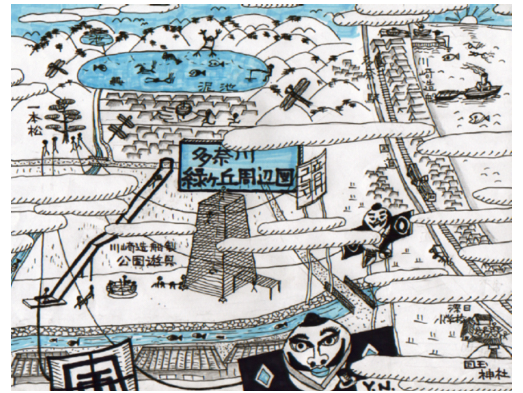
で暖を取ることが多かった。

家に帰ってからのもう一つの遊びは5寸釘を使う陣取り競争だ。この遊びはピカピカに磨いた自慢の5寸釘を地面にうまく投げて立てることが出来ると失敗するまで投げ続ける事が出来、自分の釘がうまく立った位置まで直線で結んで、軌跡を残すのだが、究極的に相手を完全に閉じた線で囲むことに集中する。うまく閉じこむと自分の勝ちとなり囲んだ地面が自分のじめんとなる。これは地面が

凍りついていては釘が立たないので、地面が柔らかい所を探す事が多奈川の冬は地面が凍てつくほど寒くなる事は減多になかった。秋口にもこの遊びを時間つぶしに使う事もあった。僕も友達も自慢じゃないが冬中、皆青凍を2本垂らし、セーターの袖口はテカテカ照り輝いていた。

ターザンごっこもあった。今でも陰に隠れてスピード違反を捕まえようと辛抱強く待っているパトカーを見るたびに思い出すのはターザン映画のワニ達だ。当時僕達の住む田舎にもターザン映画は来たのだろう。映画を見た記憶はないのだが、ターザンごっこはよく遊んだ。大概、僕がターザン役で集まった仲間は皆チーター役となるのだが、しばらくすると結局全員がターザンになってしまう。あの独特のターザンの声を試みて大声で呼ばわり、あたかも助けの象が今にも現れる気分になるのはとても気分が良かった。

もう一つ忘れられないのは、川崎造船が社員の子供達の為に河川敷の公園に作ってくれたシーソー、小型のメリーゴーラウンド、河川敷からおよそ25mは上にある住宅地まで延びる巨大な滑り台、そしてこの年になるまで見たこともない超巨大なジムだ。思い出して描いたものを載せたが、これも冬に暖を取ることが出来るのと、ターザンごっこも組合す事が出来るのでよく遊んだ。多分、今の親たちはとてもじゃないが子供が近寄る事さえ許さなかつただろうし、会社に抗議が殺到した事だろうと思う。特にこのジムの鋭い傾斜を横棒をしっかりと掴むのではなく少し滑らせて落下速度を加減しながら下まで滑り落ちるのは誰にでも挑戦できる技術と胆力ではなかつたので、友達以外の子供が遊んでいる時には見せびらかしたものだ。因みに、僕の友達は誰もがこれを習得していた。



皆が青凍を垂らして、袖口を光らせていた冬の多奈川とそこから遠くはなれたトロントとを比べた時、大自然という言葉が僕に与える意味の違いがあまりにも大きいのに愕然とする。自然と人間との関係というか交流というか...。時代の違いなのか文化の違いなのか、人類は、西洋文明は何処に向かっているのか...、考えてしまう。

みついし商店・サンダウンマーケット

日本送り用ギフト承っております **日本食品**

ビデオレンタル・雑貨

<p>●スカーボロ店</p> <p>日~水 10:00~18:00 木・金 10:00~19:00 土 9:00~18:00</p> <p>4385 Sheppard Avenue E., Pearl Plaza内, Unit 15, Scarborough, ON, M1S 1T9 (Brimley & Sheppard) ☎(416)496-9083/FAX(416)496-9084</p>	<p>サンダーズパリー 自然化粧品 取扱店</p>	<p>●エトビコー店</p> <p>日~水 10:00~18:00 木・金 10:00~19:00 土 9:00~18:00</p> <p>826 Browns Line, Etobicoke Ontario M8W 3W9 (Evans Ave. & Browns Line) ☎(416)251-7900 / (416)259-8260</p>
---	-----------------------------------	--

OPEN:10a.m. TO 7p.m. (SUN:11a.m. TO 6p.m.) CLOSED:TUESDAY
730 QUEEN ST. W. TORONTO M6J 1E8 TEL. 416.703.4550 FAX. 416.703.8939

JAPANESE FOODS & GIFT SHOP

SANKO
http://www.toronto-sanko.com

日本食品
みそ・しょうゆ各種
新鮮野菜
冷凍魚各種
スキャキ肉
数の子厚布
いくら・とびこ
塩鮭切身
冷凍えだ豆
和菓子各種
オーガニック緑茶

さくら米
炊飯器
和食うつ多種
新刊雑誌・古本
MAXELL/バッテリー
ペンテルペン
テレホンカード
ビデオレンタル
元気の源 元氣ドリンク
他たくさん!!

書籍は航空便で直輸入
定期購読受付中!

おにぎり
お弁当 (週末のみ) あります

活気のある人求む
土日働ける方募集中!

日本送りのギフトあります

この寄稿が活字になる頃には、既に北京オリンピックも終了し、スピード社製の水着の効果に決着がついてることでしょ。どなたか日加タイムス川柳に水着なしで裸で勝負せよと書かれてましたが、それも公平でいいかも。

手足にひれをつけて泳ぐのは泳法違反ですが、水着の材質には制限がないので、陸上競技やサッカーのスパイクシューズ同様、水着にも改良が加えられるのは当然のことです。

僕が中学の頃は、黒猫ふんどしで試合に出ましたし、高校時代インターハイでは六尺ふんどしを締めて練習してました。大学のインカレでは競泳パンツでしたが、黒と青の二色しかなかったように記憶します。材質は綿かナイロン(レーヨンだったかな?)でした。

前置きは、このぐらいにして本文に入りましょう。この話は、僕がブラジルからカナダへ再移住した際に大陸時報に載せてもらいましたが、今年はブラジル移民百周年だから、リオデジャネイロで殊の他お世話になった真木昌さんの偉業を再度書いてみます。

戦後、打ちひしがれていた日本人に夢と希望をもたらしたのは「富士やまの飛び魚」と称えられた古橋、橋爪、真木、浜口の日大水泳チームの樹立した八百メートルリレー世界新記録でした。1950年3月にブラジルに遠征した日大水泳部がブラジルの日系人に大歓迎されたのは言うまでもありません。

ブラジルが気に入った最年長の真木さんは、ブラジル水泳界の要請に応じ日本の水泳界から引退しブラジルに移住された。サンパウロの名門スポーツクラブ「パウ リスターノ」のヘッドコーチになり、独特の指導法により成果を挙げた後、東北地方レシーフェに移り柔道師範として生計をたてることにしたと云う。

真木さんの助手として柔道コーチをしていた河村さんの話では、人格者の真木さんは口数が少なく、時と場合によっては誤解されるらしい。無口でおとなしい日本人は、開けっぴろげで陽気な南米気質の社会では疎外感に陥る傾向にあり、真木さんも例外ではなかったとか。そう云われる河村さんは、ドイツ系の奥さんのお陰で完全に地元社会に溶け込んでおり、ドイツ人クラブの体育主事の傍ら、道場のオーナー・コーチ。

レシーフェの街ではカフムラと日本語で背中に書かれたスポーツウェアを着て歩くのがファッションで、クラブメンバーはエリートのシンボル。

スポーツマンとして人体の健康に医学以外の効用を見出された真木さんは、リオデジャネイロに指圧治療院を開業され、人伝に患者が増え業績が挙がるようになった。リオデジャネイロ州のラセルダ知事の難病を完治したのが有力週刊誌の特集記事となってから

は、訪れる患者が引きもきらず、重症患者の往診もすることとなり、昼夜多忙を極めていた。

大本教信者の真木さんは、患者に先ず神棚を拝ませる。敬虔なカトリック教徒の多いブラジル人の中には拒否する者も多かった。先生の信じる教義を信じない者には治療は出来ないと受診を断られるのであった。宮崎農林出身で食品や医薬品に造詣のある真木さんには、食糧事情の悪かった戦後の日本で世界新記録続出の秘 伝の献立に自信があった。さつまいも、そば、どうもろこし等の炭水化物が日本人を飢えから救ったと云われる。戦時中は小野田少尉ほどではなかったが、フィリピンの山野で雑草を喰って飢えを凌いだこともあるとか。

味噌汁のだしじゃこは棄てずに料理に再使用する。プロイラーの鶏や卵には栄養はないから食べないほうがまし、養鶏場で走り回っている鶏や卵を食べるのでなければ意味はない。うどんは食べず蕎麦は食べる。牛乳は乳幼児には必要だが成人には必要なく、他の食物で蛋白質は補えるとか。人間の歯は穀物を噛むようになっており、猛獣や猛禽類の歯は肉を食い千切るようになっており、草食動物の歯や他の鳥類とは異なる。他の鳥のくちばしは木の実をつつくように出来ている。従って、人間や各種の動物は自分の歯に見合ったものを食べておれば健康を維持でき、他人の領域の食べ物を横取りすれば病気になる。肉食が主のブラジル人に酪農品を食べると治療に責任は持たないというのだから、それを聞いて諦める患者も少なくなかった。

神棚を拝み、肉食、酪農品を絶った患者には誠心誠意尽くす真木さんには神がかりの威厳さえあったという。出口王仁三郎の創設した大本教は国家反逆の宗教とみなされ、日本を追われ中国に王道楽土を夢見て進出したが、蒋介石と毛沢東の国共合作中国で夢を果たせず、今ではブラジルで細々と息づいています。

真木さんの偉いところは、病気が治るまで治療費を受け取らない哲学であった。治療院であるからには、治療するまでは金をとらない信条を曲げなかった。

果たして、患者の多くは金を取らない真木さんに期せずして土地を贈った。リオ大学農学部近くで大地主となった真木さんは、原爆孤児のフミオに農場管理を任せ、週末には日系人の慰安会パーティーに無料で会場を提供された。

真木さんの指圧治療院の近くにあるボタフォーゴ・クラブで開催された全伯水泳選手権に出場された真木さんは、40才にして大会新記録で優勝された。

もう直ぐ Dr.Sakae Maki の13回忌を迎えるにあたり、戦後の日本人に光明を灯した富士やまの飛び魚の中に、誰も書かなかった偉人の居たことをブラジル移民百年を期に再度したため次第です。

LEXUS TOYOTA

新車・中古車・リース・一般修理・鍍金塗装・レンタカー (HERTZ)

お車のことはなんでもおまかせ 中古車買い取ります

Don Valley North

Canada's #1 TOYOTA & LEXUS Dealer Since 1973

LEXUS TOYOTA 横浜トヨペットグループ 海外拠点・創立32周年

① DON VALLEY NORTH LEXUS TOYOTA 横山
3120 Steeles Ave. East, Markham (905) 475-0722 友野
www.dvntoyota.com www.dvnlexus.com

② MARKVILLE TOYOTA (905) 294-8100 田中
5362 Hwy #7, Markham
www.markvilletoyota.com

③ LEXUS OF RICHMOND HILL
11552 Yonge Street, Richmond Hill (905) 883-8812 坂本
www.lexusrh.com

④ TOYOTA COLLISION REPAIR CENTRE
391 John Street, Thornhill (905) 886-0434 山口

デリバリーご注文うけたまわります

❖ 寿司、刺し身、自家製スモークサーモン、定食類、麺類、丼物、種類豊富な一品料理を御用意致しております。

❖ 御家族連れ用畳部屋有り。各種テイクアウト致します。

個人〜団体様用パーティールームございます。

営業時間

ランチタイム 火〜金 11:30〜2:30

ディナー 火〜木・日 5:00〜10:00
金・土 5:00〜10:30
月曜定休日

■ 当店ホームページ mikadorestaurant.ca を御覧下さい ■

LICENSED
114 LAIRD DR. LEASIDE
駐車場完備
TEL/FAX: 416-421-6016

寿司・割烹

みかど
オーナーシェフ 榎田佳一
1978年創業

人生は出会い④ - 黄泉の国への旅立ち

マーナ豊澤英子

看護部長代行として病院全体を管理する夜勤当直が月 1 ~ 2 回やってくる。火災、地震などの防災、医療事故の対処、重症患者の把握、夜勤ナースの監督、救急関連病院との連携等々、その責任は重く非常に骨の折れる業務である。夕方 4 時半、看護部で各病棟師長から申し送りを受ける。午後 8 時 ~ 10 時まで病院全体を巡回し、準夜ナースより状況を聞く。何事もなければ、その記録をまとめた後にシャワーを浴び、11 時頃に仮眠に就くことができる。午前 4 時に起床し、身支度を整えて熱いお茶を飲み、5 時頃より再度巡回して朝の状況を確認する。7 時頃に当直室にもどり、看護部への報告書をまとめる。というのは、あくまでも予定... 500 名近い患者が入院している大学病院、そんな風にうまく行った試しがない!ほとんど眠る時間はない、という覚悟がある。

新米師長として夜勤当直を経験するようになって数回目の夜だった。10 時半にやっと当直室へもどった。朝から神経内科病棟で働き、そのまま当直体制に突入するのだから、シャワーも浴びずに眠りたいほど両足はもううたぐたぐだった。その時ポケットベルが鳴った。「重症患者の E さんがお亡くなりになりました。家族が臨終に間に合わず誰も付き添う人がいないので、霊安室まで移送していただけますか?」通常は宿直の若い医師が家族と共に地下の霊安室へ。その後は、依頼した霊柩車が到着するまで家族が亡くなった方に付き添っていた。しかし、家族の来訪に時間がかかるという場合もあった。その間、ご遺体を霊安室に放置するということはできなかった。死んでもなお魂はそこに存在し、黄泉の国へ旅立つまでは礼を尽くすというのが人々の暗黙の了解だった。西洋とは異なる宗教観や死生観である。病棟を離れられないナースに替って担当医と共にご遺体を移送した。医師は重症患者の治療のために直ちに病棟へ引き返した。私は霊安室に供えられた仏壇に灯をともし、お線香を焚いて、家族の到着を待った。午後 11 時だった。線香の匂いが部屋を包み、物音ひとつしない、まるで俗世と切り離されたような空間に二人きり... 島に住んでいた子供の頃から叔母や祖母などを自宅で看取る場面に何度となく遭遇していたが、全く見知らぬ人とたった二人きりでこんな状況で相対する経験は初めてだった。普通に考えると、怖ささえ感じられる雰囲気かとも思われるのだが、ご遺体を眺めながら不思議と心は落ち着いていた。

私はその方に語っていた。「はじめまして、豊澤英子と申します。一度もお会いしたことのない E さんとここで語るができるなんて本当に不思議ですね。大切な人生を過ごされてきたあなたの最後の場にこのような形で傍に居させていただけることを光栄に思います。長い闘病生活は本当に大変だったことでしょう。どうか安らかにお眠りください」

自分の病棟を持ち、次々と新しい試みに挑戦していたその当時、個人的には大きな怒涛の中にいた。それが女の厄年だったことを後で知ったが、1 年間の別居を経て離婚した。理由のいかに関わらず、最終的な意思決定は両者の責任と考えた私は慰謝料を一切請求せず、自律して生きる道を選んだ。と言えば恰好はいいが、別口座にヘソクリしておくなどの处世術も持っておらず、無一文になった。大学卒業時の貯金通帳には初任給しかなかったではないか、そこから始めたと思えばいい、と言いつ聞かせた。31 歳、ゼロからの再出発だった。身体と心だけを資本に歩き始めていた。しかし、勤務を離れて一人になると、重い心が押し寄せて来ることもあった。霊安室での貴重な時間は、自分やその人の人生を想い、命の重みを実感し、死にいく過程をどう生きるかを考える場を与えてくれた。{元気なのだからやれることがたくさんある。私は何者かをしっかり見つめていこう!} その勇気をいただけたと確信している。

何という 不思議な縁に 結ばれて
君と語りし 黄泉の旅立ち



さて、午前 1 時に霊柩車をお見送りして当直室へもどり、束の間の休息をとって朝の巡回を始めた。循環器病棟に近づいたその時、ナースステーションから一人のナース(F)が飛び出していた。私も急いでその後を追った。食事中の高齢患者がハートアタックを起こし、まずいことに食事中だったため口の中は食物で一杯だった。医師がやってくるまでに救急処置を開始しなければならない、一刻を争えない状況だった。もう一人の夜勤ナースは全患者のケアに責任を持たねばならない。私と F ナースは即座に分担を決めた。彼女とは初めてそこで出会った。

私は気道を確保するために食物をかき出し、適切な体位を取らせて、気管支チューブ挿入の準備。次に心電図を装着し、心臓の動きを確認した。その間 F ナースは救急カート一式を病室に運び込み、時間が立てば血管確保が難しくなるので直ちに輸液を開始した。医師の指示がないのだから、使用する輸液はルート確保のための生理食塩水。F ナースは続いて膀胱内に留置カテーテルを挿入した。心電図の波形が変化し始めたため心肺蘇生が必要、と判断した。その時に当直医がやってきた。三者による心肺蘇生と特殊治療薬の静脈注射がスムーズに行われ、患者は命を取り戻した。

F ナースは臨床看護技術のベテランである副師長、私は外来救急部門の経験者。出勤してきた新人ナースが病室に集まってきて、固唾を飲んで先輩ナースである我々の動きを見つめていた。正にこういった場面が臨床での生きた教育。子供が親の振り見て育つ、と同じようなもの。医師との連携の取り方、看護技術の正確さと優先順位の決定、救急時だからこそ忘れてはいけない、患者本人への声かけとプライバシー配慮、同様に同室患者への配慮... どのような状況においてもすべての言動が後輩の現場教育へつながらる。百聞は一見にしかず、である。

身体は疲れきっているはずなのに、命の大事な場面に深く関わることができたという充実感と看護を選んで良かったという想いがそれらを吹き飛ばしてくれる。看護部長へ夜間報告を済ませ、喫茶で朝食。コーヒーの何と美味しいことか!

さてと、我病棟で今日も頑張るとするか。昨日の朝からの長〜い勤務が続く。

新移住者協会レッツ・プレー・ボールの夜

三浦信義

8月21日の夜、トロントの野球場ロジャース・センター(スカイドーム)は100人の新移住者協会の会員で埋まった。トロント・ブルージェイズのコージ長谷川氏、日系文化会館のシド池田氏の努力下でトロント・ブルージェイズ対NYY Yankeesの試合の切符100枚を移住者の方へ、と新移住者協会へ寄付して下さった。配布は新移住者協会の登録会員を優先し、あっという間に配布は終了した。

当日は「NEW JAPANESE CANADIAN ASSOCIATION」の大きなバナーを掲げ、踊りも入れての大応援の効果があってブルージェイズはNY Yankeesを相手に14対3の大差で大勝利!

参加者にはカナダでの野球観戦は初めての子供連れの移住家族も多く、今後こういうブルージェイズのファンがロジャース・センターを埋めることを期待したい。



『ノビーのひとりごと』…どころではなかった話

三浦信義

デジタルカメラが壊れてしまった。
3日後には8年ぶりに日本へ3週間の旅行に行く、という日のこと。素晴らしいタイミングだ。

翌日の日曜日。フューチャーショップへ。

デジタル化されてもカメラの命はレンズ、と頑固に信じているボクはエレクトロニクス系会社のカメラには見向きもしない。光学系会社のカメラに焦点を。(なーんて、高級カメラを買わない限り、そんなこと関係ないんだけどね)

4,5年前に買ったカメラの最新モデルが、はるかに小さく軽く、かつモニターが大きくなって値段は半額。使い方も同じだから老眼鏡で(と、これは冗談)取扱説明書と首っ引きになる必要もない。

早速それに決めた。
財布をポケットから取り出す。クレジットカードを引き出す。スリッパにサインし、クレジットカードを財布へ戻す。レシートを財布の中へ入れる為に、財布は自分の目の前のカウンターの上に置いてレシートを待たせた。キャッシュアがカメラの箱とレシートを一緒にボクに渡して、このレシートを店の入口で見せないと店を出られないよ、と言う。そうなのか、と大きな箱とレシートを両手で受け取り、店の入口へ。

入口の手前で財布をカウンターの上に置いたままと気がついた。すぐに戻った。この間数分のこと。財布がない。誰かが気がついてキャッシュアか顧客サービスに届けた、と思った。両方に聞いてみたがそういう届けはないと言う。ここで最悪の事態が起こったようだ、と気がついた。一瞬、呆然としてしまった。

盗まれたと決めて何をすべきか考えた。
まずマネージャーを呼んで事態を説明、他の店員に黒い財布の届けがなかったか聞いてもらうと同時に、その場を映していたセキュリティカメラの1時50分から2時までを見てもらった。同時に家に電話し、ゆうかさんにファイルからクレジットカードの番号と緊急連絡の電話番号を覚えてもらった。クレジットカード会社に電話しカードをロック。まだ使われていなかったことも確かめた。ボクはクレジットカード嫌い、生まれてこの方持ったクレジットカードは後にも先にも1枚だけ。これが幸いした。現金は\$50ほど。これはあきらめることが出来る。他に何が入っていたか記憶をたどる。バンク・カードは暗証番号がなければ使えない。OHIPや運転免許証など再発行が面倒だが他人は使えない。他のカード類も大して役に立たないものばかり。ただSINカードがたまたま入っていたことが気になった。これが詐欺専門ルートに流れるとやっかいなことになる。SINカードは通常持ち歩かないのだが、しばらく前に番号が必要なことがあり、以来そのまま入っていた。



セキュリティカメラは1秒毎に映していた。明るいシャツのボクがカウンターを離れ、あわてて戻って来るところは判定できた。その間4,5人がそこを通った。その場所はセキュリティカメラの一番遠い部分で、顔や手の動きなどははっきり分からない。何度も見てみたが、黒いカウンターの上の黒い財布であったことが判定を不可能にした。

その間、マネージャーもセキュリティも非常に協力的であったことを付け加えておこう。必要なものだけ取って財布を捨てるのが良くある、と言ってゴミ箱を調べたりしてくれた。ロックされたクレジットカードを使おうとするとキャッシュアのモニターに警報が出る、ということも分かった。

30分ほど経ったところで、盗まれたと決定、その後の処置を始めた。その地域管轄の警察署へ盗難届け。まあ、何も期待してはいなかったが、盗難届け登録番号が以後の処置に役立つ。免許証非携帯運転だが、警官に止められたらそれを示せば良い。それにしても日曜勤務の警察官のやる気のなさよ。

月曜日は朝一番に免許事務所へ。運転免許証の仮発行。次に銀行へ。バンクカードをロックしてもらい新しいカードの発行。あとのカード等は日本から帰国してからと決めた。何しろ翌朝には日本へ出発ですよ。

昼前。フューチャーショップから会社に電話があった。財布が出てきたと言う。朝の開店時に商品棚の整理をしていたらその間から出て来た。大喜びですぐ行った。財布の中には現金とクレジットカードが抜き取られていた。\$15ほどのオーストラリア現金も。SINカードを含め、他はすべて無事だった。本当に嬉しかった。盗んだ本人は財布を持っているところを止められたら終わりだから、急いで抜くもの抜いて捨てたのだ。カナディアンタイヤマネーやLCBOギフトカードなど、使えるものでもそのままだった。向こうもかなりあわてていたと思われる。

さて、クレジットカードなしで3週間日本旅行・買い物をしなくてはならない。結果を言うと日本の国際ATMでバンク・カードを使ってカナダの口座から直接現金を日本円で引き出して何とかした。ただし国際ATMは地方にはない。

クレジットカード会社は日本へ仮カードを送ってくれると言った。それで日本から先方支払いの国際電話でカナダのクレジットカード会社に仮カードを2度も依頼したが、なぜか2回とも着かなかった。どこへ送られたのか今でも不思議だ。両方のカードとも起動してないので安全ではある。

それで気がついたが、日本はカナダに比べるとまだまだ現金社会であるね。

30年以上も使ってきた、暗唱できるほど愛着のあったクレジットカードの番号がこの事件で変わってしまった。それが残念でくやし。一方、それだけで済んだのは幸運であったと思っている。



IKEBATA
NURSERY SCHOOL
TORONTO CANADA

オンタリオ州認可保育園
TEL: 416-510-1441
トロント日系文化会館内
www.ikebanursery.com

日本語&英語プログラム

- ・18カ月～6歳前後(年齢別クラス)
- ・プログラム時間: 8:30am～4:00pm (時間外保育: 7:45am～6:00pm)
- ・日本とカナダの経験豊富な幼児教育資格保持者による指導
- ・少人数グループでの日本語・英語レッスン時間あり
- ・毎月の行事やお料理保育、遠足、発表会など豊富なプログラム内容
- ・給食、おやつ込み ・兄弟・姉妹割引あり

ボランティアスタッフ募集中

詳細は当ホームページをご覧ください

新鮮さ味一番!!

オーシャンフーズの練り製品をどうぞ!

◎かまぼこ ◎てんぷら ◎さつま揚げ ◎シューマイ
◎竹輪 ◎はんぺん ◎その他練り製品

日本食品店でお求めください

SEAFOOD MANUFACTURER
3 TURBINA AVE, TORONTO, ONT. M1V 5G3
www.oceanfood.ca TEL.(416) 285-6487 FAX.(416) 285-4012

Since 1980

2008 夏の BBQ パーティ裏話

三浦信義

恒例の新移住者協会の夏のBBQパーティーは8月24日、日系文化会館で大勢の参加者を集めて盛大に終わりました・・・、と書くのが報告記事の常だが、今回は泣く子もビックリのその楽屋裏を覗いて見ようではないか。

この夏のBBQは20年ほど前に移住者の親睦目的で始まった。皆でお金を出し合って食べ物を買って一緒に楽しもうよ、というもだった。参加者全員ボランティア。夏のBBQでボランティアも参加費を払うのはそういう歴史があるからだ。

昔は皆が自主的にいろいろ仕事をし、買い物もどんぶり勘定だった。参加者が増えるにつれこれではやっていられない。組織化が必要だ。10年前にこれをプロジェクト体制に移行した。(僕、エンジニア)。それぞれの仕事に担当リーダーを決め、各リーダーはその仕事に全責任を負う。BBQ総合リーダーは「皆、しっかりやれ!」と旗を振ればすべてうまく行く体制を作り上げた。当然僕はBBQ総合リーダーを2年勤め楽しい思いをした。

食料は前日、買い出し部隊が町中を回って購買し運び込む。買う量が難しい。多くても少なくても困る。長年の参加者数VS消費量のデータを解析し、個々の材料購買式が作ってある。 $P \times F = N$ 。P:参加者数、F:材料係数、N:購買量。なかなか高度だね。(僕、エンジニア)

数式があってもPの予想がはずれると大混乱になるね。BBQ前の問い合わせの数、ボランティアの集まり具合、かち合っている他の行事、天候などを肌で感じ(!)、長年の「感」で推測する。(僕、占い師)。今年は250人を感じた。300人を準備した。269人来た。悪くないね。



BBQ準備の中心はまず台所だろう。朝早くから大勢のボランティアが押しかけて大量の食事を準備する。ソーセージゆで、どうもろこしゆで、ご飯炊き、サラダ作り、果

物準備などなど、壁に張った手順に沿ってワイワイ、怒号と笑顔でこなして行く。



ガスBBQ部隊は火をつけ、ゆであがったソーセージから焼いて行く。焦げないように、が難しい。焦げると台所から怒鳴りに来るものね。(誰でしょう)。それが終わると、かの有名な韓国焼肉をBBQ。毎年汗をかくて頑張る熟練BBQチームだ。

会場設定、受け付け、出店、お茶、食事サブテーブル、散髪、かき氷、ゲームなど平行してボランティアが大活躍して準備だ。そして参加者達が三々五々到着、受け付け開始、あとはすべてがうまく行き、今年も「大成功」と記事を書いて終わりだ・・・、は表向き。内情は???



大鍋に大量に湯を沸騰させても半解凍ソーセージを放り込むと温度が下がる。なかなか沸騰しない。次はどうもろこしが待っている。会館の20カップ大炊飯器7つで大量のご飯を炊く。この大炊飯器、20年は使っているだろう、炊き具合が一定しない。水加減の議論は毎年のごと。

「米騒動」。大量のどうもろこし。これを3つに切るのは大仕事。今年是指を切った人がいた。来年からは安全第一、半分に折る。サラダ。数式が完全でもレタス1個の大きさが違っていると量に差が出る。今

年はレタスが小さく足りなかった。やがて焼けて戻って来たソーセージを切る作業も必要だ。最後に大量の果物の準備。その間、洗い物作業が延々と続く。早い話が戦場に近い。それでも長年の経験から作り上げられたしっかりした手順で、この全作業が3時間以内に無事に終わるのだから素晴らしいと思わないかね。終わると皆、すました顔をして台所から出て来るから、誰も内部の大騒ぎには気が付かない。

毎年繰り返していろいろな問題は解決していると思うのは間違いで、毎年新しい問題・課題が続出する。今年も新しい台所を初めて使った。食事サーブを室内に移した。ゲームの場所も一考要。ガスBBQは来年から小林ホールの裏へ。終わりのない試行錯誤がBBQの現実だ。



今年はキャッシュバーが会館側の間違いで無料だった。通常20本程度しかでないビールが今年は何と74本! 無料だとこんなにも違うというのはちょっとショックだった。



写真撮影 マーナ・ジョン

【編集後記】

編集担当責任者 森貞一弘

時の流れというのは、早いもので、あっという間に過ぎてしまう。元々、「にゅうすれたあ」は季刊誌ということで年4回発行のハズ?だったのを、何となく、それじゃ寂しすぎる気がしたので、勝手に奇数月の第一金曜日に発送するって決めてしまったのだが、それが失敗だったって、思うこともあるんですよ。(2ヶ月って、ホンマに早すぎ~!)

正直、僕の初めての「にゅうすれたあ」って、古い記事以外、何も載せることが無かったので、余白を埋めるために、仕方ないので、理事、役員、集合写真なんか撮って、全員の名前を列記したんだけど...今じゃ、そんな余白は残らない(っていうより、そんなのは、もったいないよね?)原稿を全て、ギュ〜ギュ〜に詰めるのに汗してます。

はてさて、それじゃ、この集合写真は、一体、何だ?って、お叱りを受けそうだけど...(理事と役員が大半ってことには間違い無いんですけど)実は...先回の7月号の発送を手伝ってくれた人達ですよ。実際、これだけ沢山、集まって、封筒貼り、切手貼り、宛名シール貼り、「にゅうすれたあ」の三つ折りっていう内職のようなことを情熱かけて手伝って下さるので、(皆、いい顔してるでしょ?右下の人なんて、靴まで輝いてるし...)皆さんの所に早く配達されるんですよ。

今回は「勤労感謝の日?」が、絡んだので、可成りきつかったんですけどね、それでも、沢山の人達が、助けて下さいました。ありがとうございます。皆さんも、好きなことを、自分の言葉で、書いて下さいね。

次号の原稿締め切りは10月15日です。

原稿の送付先  doit4joy@hotmail.com